

1.多事争論会 意見交換発言内容 (2025.11.8)

テーマ1【町会ってなにしてるの？どうして必要な？】		
1番 (松本市町会連 合会会长)	コメント	<p>説明資料は、今の松本市の町会の現状をうまく言い当てていると感じた。</p> <p>町会活動は平日の事業であるため、参加される方はリタイアされた方がほとんど。これから町会を担っていただく若い方、10代から40代の方々にも積極的に参加していただきたい。それを実現するためには事業の内容等も考え、子どもたちが率先して町会の活動に出てもらえるよう町会運営をしていかなければならない。</p> <p>最近は価値観の相違等で町会に目を向けていただく若い方が減っているのは事実。これから町会を存続させて地域のために活動するには、若い人に参加してもらうこと以外ないのかなと思う。そのための効率的な町会の運用には、デジタル化も避けて通れない話だと思う。</p>
テーマ2【こんな町会あり？なし？】 ①町会デジタル化の推進		
2番	発言内容	<p>「Jichi Navi(じちなみび)」アプリを導入し、回覧機能等を活用して隣組長の負担軽減を目指している。市、地区、町会、隣組が回覧するものを掲載しているが、今の現状で紙の配布を100%なくすということは難しいと感じている。</p> <p>先日敬老祝賀会があり、アンケート機能を使って意見集約を行った。様々な意見が寄せられたが、高齢の方がスマホを使って回答することはハードルが高く、その次の利活用に繋かないという現状がある。</p> <p>アプリの良い点としては、役員専用のページを作成し、役員同士でチャット会議ができるため、役員の負担軽減という点でかなり有効だと感じている。</p> <p>ただ、ノウハウがほとんどない中で手探りでやってきたため、今後さらに活用していくには、専門的にアドバイスしてくれる人が必要と考える。また、アプリ利用には予算も町会組織収入の2%かかるため、今後検討が必要。</p>
	回答	<p>(市長)具体的な事例の話として、紙の配布物の100%負担軽減は難しいといったことや、一方で役員同士は顔を合わせなくても意見交換できる点が使いやすいといったご指摘をいただいた。</p> <p>高齢の方のスマホ利用はまだまだハードルが高いということを考えたときに、一気には進まないが、今の事例を住民自治局・地域づくりセンターが中心となって皆さんに積極的に情報をお知らせし、役員レベルの情報共有や、そこからもう少しあげて紙の配布物を本当に必要な方々だけに限定して配布していくという方向性に進んでいく必要があると考える。</p> <p>アプリの導入費用は、その他の地域づくりの予算とは別枠で予算措置が必要である。町会のデジタル推進に積極的に取り組んでいただけるようにしたい。</p> <p>職員側は、どのような仕組みなのかを皆さんに分かりやすく伝えていくという意識を、もっと高めていく必要がある。担当の職員が地区に出向いてサポートするのがセットでないと進まないので、来年度以降私たちの仕事として進めたい。</p>
3番	発言内容	<p>自身の地区は16町会あるが、そのうち1つの町会にデジタルツールの扱いに長けた人がいて、ホームページを作成するなど、町会内の負担軽減を進めている。</p> <p>ただ、他の15町会へ同じようにデジタルを進めていくのは難しい。また費用も掛かる。</p> <p>資料を見ると、485町会の47%は何かデジタル利用していると考えられる。</p> <p>松本市にはDX推進本部があるので、スペシャリストを活用し、デジタルコーディネーター・アドバイザーを組織的に構成して全町会に展開してほしい。</p>
	回答	<p>(市長)町会に出向いて説明し、使い方を理解してもらえる、それを誰が担うのかを具体的に我々として考えることが必要。現実的なところでは、地域づくりセンター長にこの分野のスペシャリストに近い存在になってもらいたい。一番住民の近くで仕事をしている職員が今までこの役割を担っていなかったので、住民の皆さんに説明し、理解してもらう。そのために研修、勉強会を一番やらなくてはいけないことだと思っている。</p> <p>来年度に向けて、DX推進本部でこの分野に日常的にかかわっている職員が中心となり、研修の一つとして考えたい。</p>

4番 (デジタル化について取組紹介)	発言内容	町会を取り巻く厳しい状況で、働きながらできる役員に向けての負担軽減と効率化を検討している。 ①市からの業務見直し、②町会活動そのものの見直し、③デジタル化による負担軽減の3点を重点方針として取り組んでいる。 デジタル化は配布物の負担軽減だけでなく、時代に合った町会運営が若年層の参加促進にも期待できると考える。 他自治体では、全戸配布や回覧はスマホでの回覧、イベント案内や会議通知は個別のスマホの通知など活用の場を広げて効果を上げているところもあると聞く。また防犯や防災、安全対策をリアルタイムで情報共有が可能となる。 ただ、地区や町会で取り組むには予算の圧迫や、デジタルの人材の確保が非常に大変。 松本市版アプリを作成し、デジタル先進の市を作っていくのは重要なのではないかと思う。
5番	発言内容	地区的防災担当をしている。アプリを導入し、災害発生時の安否確認に活用。地区内で平日昼間に安否確認訓練を実施し、町会加入世帯の75%が安否確認できた。 現在の訓練は休日が中心だが、平日何かあったときに安否確認できるのか疑問。 アプリのメリットは、離れたところからでもどういう状況下でも安否情報が瞬時に分かるところ。アプリを使っての安否確認を各町会でなく松本市全体で、DXとして検討していただければ。
	回答	(市長)あらゆる領域について一気には進められないが、優先順位をつけると、防災は優先順位が高い問題として受け止められる。 町会単独にとどまらず松本市全体での防災対策としていただいた提案として持ち帰り、早速検討したい。
6番	発言内容	自身の地区内でデジタルツールを学ぶサークル活動をしている。学習したことを活かして、スマホ相談や町会のスマホ講座を実施している。学び合いながらアウトプットし、地域活動をサポートしたい。自分たちの知識をお互いに教え合い、知識をアップデートしつつ、地域貢献できればと思っている。
	回答	(市長)有志の皆さんのが学び合って、周りの方々にもサポートできる人が増えているということをお聞きした。さらに、皆さんたちは地区内にとどまらず、他の地区へも出張し、活動の機会がもてるならやりたいとおっしゃっていると聞いている。 もしそういった活動に取り組まれる場合、私たちも必要な予算を手当することが必要だし、ぜひやりたい。 地区内だけにとどまらず潜在的に他の地区にも動きを広げていく、輪を広げていただけるように、そのための予算・そのための人材の後押しを合わせて進めていきたい。
7番	発言内容	デジタル化へ進む中で逆行する意見かもしれません、役員共通メールについて良い点と悪い点があるのでお話したい。 役員共通メールは連絡調整・意見聴取・欠席連絡等に使用している。メールの利用によって、欠席が増えてきたと感じる。メールで簡単に言えるため、言いにくい話もメールで言ってきたり、良くない状況もあると思う。 人間関係が希薄化している中、人と人が面と向かって話し合うことを大事にしていく必要があるのではないか。全てをデジタル化すべきか立ち止まって考える必要があるのではないか。 自身の町会では防災対策に活用している。何を重点にデジタル化するかの視点が重要であると思う。
	回答	(市長)町会の問題に限らず、全てが対面ではなくなるということはあってはならないし、メッセージの発し方も難しいところがあるが、全てをデジタル化に置き換えられるとは我々も考えていない。 一方で、一番大事な人間関係のコアな部分をしっかり構築するためには、顔を突き合わせなくてもいいことはデジタルに置き換えるのも大事だと思っている。そのコアな部分を改めて作りなおすということが大きな目的。 その上で、特に、働いている人が役員を引き受けられる町会にするために、やらなければいけないことを皆さんとともに考えていきたい。
8番	発言内容	学生はそもそも町会の存在を知らず、入るきっかけがない。現在の若者はLINEしか見ない人が多いので、若者に人気のアプリやスマホアプリを使い、若い人に町会を知ってもらう機会を増やすのは大切なことだと思う。
	回答	(市長)学生の皆さんまだ扶養されている立場があるので、原則的には町会への加入を積極的に働きかけていないが、一方で将来世帯主になる直前にいる学生の皆さんの中には町会に興味持っていたり、地域の活動に関わっていきたいと思っている人もいると思う。その人たちに向けての情報発信や情報共有という観点では、スマホ媒体を使った周知を積極的に取り組む必要がある。

テーマ2【こんな町会あり?なし?】 ②学生の町会参加に関する提言		
学生発表者 「学生の町会参加に関する提言」について	コメント	<p>(市長)町会に学生の皆さんのが加入することは前提ではないが、地元の町会にこだわる場合は、町会に加入するのと近い状態で地元の町会の皆さんと関係づくりをしていこうという話だと受け止めた。</p> <p>また、地元の町会にこだわらない場合は、学生として色々な地域の町会活動に参加する、関わりを持つことで将来の街づくりや住民自治活動のヒントを手に出来る、意欲がある取組みと受け止めた。</p> <p>特に地元の町会にこだわる場合で述べていただいた部分は、学生という立場にとどまらず、若い世代にどう関わってもらうか、あるいは加入してもらか、加入をしてもらったときにどういう役割を担ってもらうかということのヒントがある気がする。</p> <p>その理由は、町会費の減額、一部活動の免除という言葉があるが、町会に加入することは役割を引き受ける、義務的なことを責任として引き受けることがあるが、そのことが少し強すぎると若い人が敬遠して距離を取ってしまうとすれば、段階的なアプローチとして、町会費の問題や活動への参加の度合いに柔軟性を持つことが、考え方としてはあり得ると思った。</p> <p>その上で、地元の町会にこだわる場合もこだわらない場合も、意欲を持っている学生をはじめとした若い人がいるので、受け取る側、私たち行政が橋渡し役になってどうすればもっと参加の幅を広げてもらえるか考えていきたい。</p> <p>今年から若者参画課を設けた。マッチングに関して行政の役割や、学生が活動するのに必要な支援を行っていく部分は、対町会だけとは限らないが若者参画課が担っていく仕事になる。町会と若者の橋渡し役ということに積極的に取り組みたい。</p>
9番 (学生との関わりについて取組紹介)	発言内容	<p>自身の地区では、3年前から地区全員集合の夏祭り縁日を開催している。16町会の中から実行委員会を組織して、育成会や地域づくりセンター、公民館、若者、学生が参加している。主に学生や若者に企画立案運営を全てお任せしている。SNS発信も若者主体。夏祭りでは地域の伝承行事である青山様とぼんぼん・飲食・体験ブースを開催している。参加しやすいように毎年8月8日と日を決めて行っている。この取組みから青山様を知らない人も活動に携わることで知ることができ、伝統文化の継承にも寄与できていると思う。</p> <p>今年は600名参加、近年は外国の方も参加いただき、来年から外国人通訳ボランティアに来ていただく予定。将来的には外国人を中心としたブース出展も検討している。参加地区外の学生も歓迎。ボランティアを中心に「楽しくなければ地域じゃない！」をテーマに来るもの拒まずだれでも参加できるようにしている。今後も若者主体の方向は変わらず実施していく。</p>
10番	発言内容	9番の方の地区的縁日に参加した。きっかけは実行委員の学生の知り合いからのお誘い。活動する中で、子どもたちと関われてよかったです。
	回答	学生が参加するうえで義務感ではなく、参加して楽しいという思いがあれば町会活動に参加できると考える。そのため、全部の活動に参加するのではなく、学生が参加しやすい活動、参加して楽しいと感じる状況が学生にとっていいのではないかと感じた。
11番	発言内容	若者の町会参加について、防災を切り口に検討している。各地域の防災訓練は大人中心になりがち。学生参加をどう実現するかが課題。学生が多い地区だが、災害時の避難所運営などに学生がどう関わり、助け合いができるか議論したい。学生との繋がりが難しいので、うまくつながればいいと思う。学生は学校の防災訓練には参加するが、地域の防災訓練へも参加してもらえるような仕掛けを作りたい。
	回答	(市長)城東、安原、岡田地区は学生が多く居住している。 大学に通っている時ではなく自宅にいる時は地域の避難行動の一員となるため、町会加入とは別の次元で学生の皆さんのが地域と一体となって取り組みをしていただくことが必要。学生の皆さんにも地域の安否確認も含めた避難行動・避難訓練に参加してもらえるようにするために、関係性、接点・窓口はどこかということが必要で、橋渡しは行政が行う。特に信州大学・松本大学周辺地区との学生との接点は意識していただきたい。

	発言内容	市内の大学に通っていて、ゼミの活動で地域に出向き、避難所運営について学習している。多くのゼミ生が学生防災士資格を取得している。 質問として、学生が関わっていく中で、町会としては学生に防災以外に何に関わってほしいか。また行事の開催時に役員ばかりでなく、役員以外の多くの人に集まつてもらうには大学と町会をどう連携させる必要があるか。
12番	回答	(市長)防災はもちろんだが、子どもの参加する行事や、町会加入者が高齢となっていく中で、町会の環境美化に関わる労力を必要とする地域活動に、若い世代の人たちに参加してほしいという思いは多く持っている。 若い人が「環境美化活動は必要性が高いので、自分たちも参加しよう」と言ってもらえるような関係性づくりが必要。各地区の皆さんと直接チャネルを結べるようになるまでの過渡期は、今まででは住民自治局、これからは若者参画課が、町会問題だけでなく、学生が松本市の色々な問題、例えば教育問題や街づくりの問題にかかわりたいという意欲を一元的に受け止め、各部局に繋いでいく役割をやっていきたいと思う。町会については地域づくり支援課に繋いだり、防災関係は危機管理部に繋いだりすることで、関係性の構築をしていきたい。
13番 (学生との関わりについて取組紹介)	発言内容	学生と町会とのマッチングの例として、ブース出店・屋台企画などが高齢化した組織では得意な人が少ないので、学生さんからアイデアを出していただくのが良いと思う。 自身の地区での学生との関わりの取組として、昨年から花火大会を開催していて、小中学生に全面協力をしてもらっている。今年は小中学生に全面的にお任せをした。とても大盛況で、大人の出る幕が全くないくらい全て子どもたちが仕切っていた。そのくらい若い時から町会に関わっていれば、先ほどの説明(学生の町会参加に関する提言)の中で町会に関わりたい学生が8割いるということだが、この数字を維持できるし、向上すると思う。 小中学生と連携していない町会あれば、ぜひおすすめしたい。
まとめ		
14番 (松本市町会連合会会长)	コメント	色々なご意見をいただきありがとうございます。 町会って何してる?という部分で、説明資料(町会ってなにしてるの?どうして必要なの?)1ページ目の「①住民相互の連絡、②生活環境の整備、③地域福祉や公民館活動、④交通安全及び防災、防犯活動」を485町会はやっていると思う。 ただ、若い人、小中学生は町会が何やっているかわからない人多いと思っている。これから町会を担う若い人に学生も含めて町会に関わっていただいて、次の世代の町会を担ってほしい。そのための工夫として、地区的イベント、街のイベントに学生の力、知恵をお借りしながら参加していただいて楽しんでいただくことが一番大事だと思う。楽しめば、町会ってなかなか面白いところだなと思っていた部分もあると思う。 もう一つのテーマ、町会のデジタル化というものがあり、私たちもLINEで役員間の連絡とるが、そこから先のデジタルの活用に進まない。具体的には市からの指導を受けながら町会の効率化・省力化という意味で進めていきたい。 ただ、デジタル化は効率化のためのツールに過ぎないので、基本は町内活動は人ととのつながりの中でやっていくのが大切。地域のコミュニティーの中で、人ととのつながりを大事にするということが一番大事だと思う。特に近年は昔に比べて隣組の中でもお付き合いはないなど、関係性は希薄になっている。多くの町会の事業に地域の皆さんのが参加することによって、薄まってきた絆を取り戻していただいて元気な町会にすることがこれから大事なことだと思う。
畠雲市長	コメント	令和の町会がどうあるべきかということを考える機会にしたいと思ってまいりました。 デジタル化を進め、効率化・省力化を進めることによって、本当にこれからの時代に必要な人ととのつながり、あるいは地元のぬくもり、そしていざというときに助け合える関係づくり、これが令和の時代の町会の目指すところ。 今日いただいたご指摘ご提言を踏まえて、今年度中に住民自治組織の再構築の全体像をまとめて、来年度以降、前に進めていくよう実行に移したい。そのためにこれから予算編成の査定が始まるが、具体的に必要な予算計上し、職員の研修や職員のノウハウを広げることにも取り組んでいきたい。 全国的に町会、自治会の高齢化や人間関係の希薄化が大きな問題になっているが、だからこそ松本市がそうしたものを受け越えていく、また新しい形を生み出していく先駆けになれるように皆さんと取り組んでいきたい。

2.多事争論会 アンケート回答者からの意見提出（2025.11.8）

意見内容	提案者	<p>現在、市ホームページに「地域の掲示板」という仕組みがあるが、十分に活用されていないように感じる。せっかくのデジタル基盤を有効に活かすことで、地域情報の共有をより便利にできるのではないか。</p> <p>具体的には、</p> <p>①情報の整理・閲覧性の向上…現在は発信団体ごとに情報が分かれしており、必要な情報を探しにくい。各町会を選択すると、その町会に関連するお知らせを一覧表示できるような仕組みにすれば、実際の回覧板のような使い勝手になると思う。</p> <p>②市公式LINE等との連携…利用者が自分の町会を設定できるようにし、その町会に関する情報が更新された際にはプッシュ通知で知らせる仕組みを導入してはどうか。LINEのゴミ出し収集日通知機能では既に同様の通知機能が使われているため、仕組みの流用も可能だと思われる。</p> <p>これらの仕組みが整えば、町会に依存せず市が主導でシステム構築でき情報発信を進めることができる。また、町会にとっても「市に情報を持ち込み」、「市の公式LINEを案内する」だけで済み、住民にとっても閲覧や通知の利便性が高まる。アプリのような双方向性はないが、デジタル化に慎重な町会にとっても「第一歩」となり得ると思う。</p>
	回答	(地域づくり支援課)「地域の掲示板」の活用を推進していくためには、ご提案いただいた改良が必要と考えますが、ホームページの運用では難しい面もあるため、ご提案を参考にさせていただき、今後、アプリの導入も含め、町会連合会と一緒に検討していきます。